

【B活用 3 二】

物語の場面の展開や表現の特徴をとらえること

(読むこと：選択式)

問題概要
物語「二ひきの蛙」に描かれている季節を、次の1から4までの中からすべて選ぶ。

① 春 ② 夏 ③ 秋 ④ 冬

二ひきの蛙は、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。蛙たちは土の中にもぐって寒い冬をこたねばならないのです。

▼春になったら、このけんかの勝負をつける。」

と、いつ、緑の蛙は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

と、いつ、黄色の蛙ももぐりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙たちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱が立ったりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。

解答の状況
1,3,4と解答【31.6%/34.2%】 1,4と解答【53.1%/50.9%】 無解答【0.8%/0.7%】

繰り返し指導のポイント

小学校低学年
場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。

小学校中学年
場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを想像して読む。

小学校高学年
登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえて読む。

中学校
場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる。

場面の展開や登場人物の心情、情景などを叙述に注意して読み取った上で、想像を広げながら読むこと

要因分析

正答率【31.6%/34.2%】 無解答率【0.8%/0.7%】
・季節を直接表す語句(春・冬)に着目することはできているが、「もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。」という表現から、それが秋の場面であることをとらえられていない。

指導上の工夫

様々な言語活動を通して文学的な文章を主体的に読む学習活動

- ・文学的な文章を読む際には、それぞれの場面がどのように設定されているか(時・場所・人物など)を本文中の言葉に即してとらえることが大切である。
- ・場面がどのように展開しているかをとらえるとともに、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読むことが重要である。
- ・参考資料：「授業アイデア例」P5～6

【B活用 3 三】

朗読の仕方の工夫について、理由を考えること(条件作文)

(書くこと、読むこと：記述式)

問題概要
「やあ、きみの黄色は美しい。」をどのように工夫して朗読するか。あなたの考える朗読の仕方の工夫とその理由を、次の条件1から条件3にしたがって書く。

条件1 には朗読の仕方の工夫を、 にはその理由を書くこと。

条件2 は、物語の内容を踏まえ、物語の中の言葉を使って書くこと。

条件3 は、十五字以上、三十字以内で、 は、四十字以上、六十字以内で書くこと。

二ひきの蛙は、からだから泥土をおとすために、池のほうにいきました。

池には新しくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいいたたえられてありました。そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんとびこみました。

からだをあらってから緑の蛙が目をはちくりさせて、

▼「やあ、きみの黄色は美しい。」

と、いつ、

正答例
さわやかな気分が伝わるように、高く大きな声で読む。
緑の蛙も黄色の蛙も池の水で泥土を洗い落としてきれいになり、体だけではなく気持ちもさっぱりしたから。

繰り返し指導のポイント

小学校低学年
語と語、文と文との続き方に注意しながら、文や文章を書く。

小学校中学年
目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。

小学校高学年
目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。

中学校
伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちの根拠を明確にして書く。

文学的な文章の音読の在り方について、その根拠を書き表したり、実際に音読したりすること

要因分析

正答率【57.3%/58.9%】
無解答率【14.8%/13.6%】
・物語の内容の正しい理解に課題がある。
・声の出し方に関する具体的な工夫を書くことに課題がある。
・過去に「作品の展開や心情の変化を読むこと」H19B2【66.8%/68.5%】でも課題が見られた。

指導上の工夫

自分の読み取った内容を表現する学習活動

- ・文学的な文章を朗読する際には、自分なりに解釈したことに基づいて、声に出して表現することが大切である。
- ・作品に出てくる情景や登場人物の心情などを理解し、それにふさわしい(緩急、強弱、間の取り方などに気をつけて)朗読をすることが必要である。